

小学校 国語科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の構成の改善

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、**国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力**の育成をめざす。

知識・技能の習得

日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

内容の構成の改善

現行学習指導要領

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

新学習指導要領

【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

【思考力・判断力・表現力等】

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

現行学習指導要領の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」という構成が、**【知識及び技能】**及び**【思考力、判断力、表現力等】**という内容構成になりました。

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、**相互に関連し合いながら育成**をめざします。

「**学びに向かう力、人間性等**」は、指導事項のまとまりごとではなく、**教科及び学年の目標においてまとめて**示されています。

学習内容の改善・充実

【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】の各指導事項について、育成をめざす資質・能力が明確になるよう内容を改善しています。

1 語彙指導の改善・充実

各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、**語句への理解を深める指導事項を系統化**して示しています。

2 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

「**情報の扱い方に関する事項**」を新設し、「**情報と情報との関係**」と「**情報の整理**」の2つの系統に整理して示しています。

3 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

【思考力、判断力、表現力等】の各領域において、**学習過程を明確**にし、指導事項を位置付けています。また、**全ての領域**において、「**考えの形成**」に関する指導事項を位置付けています。

4 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項を「**我が国の言語文化に関する事項**」として整理して示しています。

5 漢字指導の改善・充実

日常生活などへの必要性をふまえ、**第4学年**の「学年別漢字配当表」に**都道府県に用いる漢字20文字**を加えています。また、児童の学習負担に配慮し、**第4、5、6学年の配当漢字及び字数を変更**しています。

学習の系統性の重視

各指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、**重点を置くべき指導事項を明確化**し、その**系統化を図**っています。

授業改善のための言語活動の創意工夫

各学校の創意工夫による授業改善が行なわれるようにするため、**言語活動例が種類ごとにまとめて**示されています。

読書指導の改善・充実

【知識及び技能】に「読書」に関する指導事項が位置付けられ、「**読むこと**」の領域では、**学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例**が示されています。

2 小学校国語科における授業づくりのポイント

言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育む

言語能力を育成する国語科では、**資質・能力（指導事項）を明確にし、適切な言語活動を位置付け**、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成します。例として、「B 書くこと 言語活動例 ア」をふまえた事例で説明します。

例 第3学年及び第4学年「調べた記号を報告する文章を書く」

〔知識及び技能（1）ウ 話し言葉と書き言葉〕漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。（後略）

〔思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ〕自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

Point

この単元で育成をめざす資質・能力が明確になるよう、〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、表現力等〕の**指導事項**を設定します。

Point

指導事項をふまえて指導のポイントを考えます。

次	主な学習活動	
1	・身の回りにある記号のクイズに答え、記号について関心をもつ。	題材の設定
	・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	
	・身の回りの記号の集め方について知る。	
2	・身の回りの記号を調べ、取材カードに書く。	情報の収集
	・集めた記号の中から報告する記号を選ぶ。	
	・選んだ記号の特徴を分析し分析カードを書く。	内容の検討
	・教材から報告する文章の書き方を知る。	
	・分析カードをもとに報告する文章の下書きをする。	構成の検討
	・書いた文章を読み合い、修正をする。	
	・報告する文章を清書する。	考えの形成
・書いた文章を読み合い、修正をする。		
3	・報告する文章を読み合い、感想や意見を伝える。	記述
	・単元の学習を振り返る。	
		推敲
		共有

- ・相手や目的を意識させます。
- ・調べたい記号を選ばせ、意欲的に学習に取り組めるようにします。
- ・集めた材料を比較したり分類させたりします。
- ・書く内容の中心を明確にさせます。
- ・考えを支える理由や事例を明らかにして書き表し方を工夫させます。
- ・句読点や段落を適切に表記して文章を書かせます。
- ・間違いを正したり、相手や目的を意識したりしているかを確認させます。
- ・文章に対する意見を伝え合い、自分の文章のよいところや書き表し方の工夫を見つけさせます。

Point

主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。

子どもの資質・能力を育て、学習の質を一層高めていくために、子どもが学習に主体的に取り組む場面や、対話を通して考えを深める場面などの設定が大切です。また、「**主体的・対話的で深い学び**」は、**単元など内容や時間のまとまりの中で実現**をめざします。事例では、次のような場面などが考えられます。

例：主体的に取り組めるように調べる記号を選ばせる場面

例：資料との対話を通して、書き表し方を学ばせる場面

例：学習を振り返らせ、報告という目的に応じた書き表し方とはどのような書き方なのかを自覚させる場面



子どもが書く「報告する文章」のモデル

Point

言葉による見方・考え方を働かせるとは、子どもが、**言葉に着目して、言葉に対して自覚的**になることです。

例えば、資料との対話を通して、書き表し方を学ばせる場面では言葉に着目させます。言葉に着目して考えさせたり、表現させたりして、言葉の力をつけていくことが大切です。

どの言葉を使えば、考えたことが相手に伝わるのかな？

〇〇のような言葉を使えば報告する文章を書くことができるね。

